

Medical News

2015年8月
Vol.98

Shinko
Hospital

特集 整形外科

人工関節と脊椎手術

2007年4月に赴任して、早9年目となりました。その間、スタッフも私以外全員入れ替り、手術アプローチ、周術期疼痛コントロール、リハビリ加療も大きく変遷しました。手術件数は、赴任時452件から2014年は709件に大幅に増加しました。これもひとえに近隣の先生方からの貴重な症例をご紹介頂いたおかげです。誌面をお借りし厚く御礼申し上げます。今回は、人工関節と脊椎手術について、当院の近況を報告させていただきます。

混合液)を関節周囲に行う事により、術中出血量、駆血時間が大幅に減少しました(カクテル無し、ありの比較 図5.6.)。駆血時間短縮により術後のDVT (Deep Vein Thrombosis) 発生率低下に貢献していると考えています。

人工膝関節術後の期待する事として、疼痛改善が最も多いにも関わらず、カクテル導入前は痛みが強く、両側では半数が

術後48時間以内に座薬か筋注が必要でしたが、関節周囲カクテル並びに術当日より弱オピオイドを開始する事により、追加の鎮痛薬を必要とする症例が少なくなりました(図7)。

最近では、医療経済面、患者さん負担軽減(入院日数、費用)、両側の方がリハビリの進行が速く在院日数が短い(図8)などの理由から、積極的に両側同時に手術を行っています。

【整形外科部長 武富 雅則】

Contents

- *人工関節と脊椎手術
- *感染症科医のつぶやき
- *開業医探訪「平川医院」
- *お知らせ・講演会のご案内

神鋼記念病院理念
地域医療に貢献し、信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんの立場にたった「あたたかい」医療を提供します。
2. 個人の尊厳と生活の質を重視した医療を実践します。
3. より良い医療を提供するために、常に学・技の研鑽に励みます。
4. 全ての領域における医療安全に最大限の注意を払います。
5. 快適で清潔な医療環境の構築に努力します。

社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL: 078-261-6711 (代表)
FAX: 078-261-6726
URL: <http://www.shinkohp.or.jp/>
発行責任者: 理事長 山本 正之
編集責任者: 神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

患者教室などの
詳しい情報は
こちらから!!
神鋼記念病院
検索
<http://www.shinkohp.or.jp/>

Info 1 第16回 研究カンファレンス (個の医療研究会共催)

- 日時: 2015年8月28日(金) 18時30分~19時30分
- 場所: 神鋼記念病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演: 「関節リウマチ診療の最前線と個別化医療研究」
演者: 膠原病リウマチセンター長 兼 総合医学研究センター長 熊谷 俊一
- その他: 日本医師会生涯教育講座 1単位申請しております。
- お問い合わせ先: 総合医学研究センター 担当: 兒山 TEL: 078-261-6711(病院代表)

Info 2 神鋼糖尿病セミナー

- 日時: 2015年9月10日(木) 19時30分~21時00分
- 場所: 神鋼記念病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演: 「2型糖尿病治療を再考する」
座長: 神鋼記念病院 糖尿病代謝内科 科長 竹田 章彦
演者: 渡辺内科クリニック 渡辺 伸明 先生
- お問い合わせ先: 地域医療連携センター 担当: 浅田 TEL: 078-261-6739(直通)

Info 3 第27回 神戸オープンボーンカンファレンス

- 日時: 2015年9月12日(土) 16時00分~18時30分
- 場所: ANAクラウンプラザホテル9階「リンデン」(神戸市中央区北野町1-1 Tel:078-291-1121)
- ショートレクチャー: 「開業医における骨粗鬆症治療薬の治療選択
ヒアルロン酸等の関節注射における感染率」
演者: 井尻整形外科 院長 井尻 慎一郎 先生
- 特別講演1: 「神戸地区大腿骨頸部骨折 地域連携パスの患者動向」
座長: 神戸市立医療センター中央市民病院 整形外科 部長 安田 義 先生
演者: 神鋼記念病院 整形外科 部長 武富 雅則
- 特別講演2: 「Oblique Lateral Interbody Fusion(OLIF)の手術手技と応用」
座長: 神戸市立医療センター中央市民病院 整形外科 部長 西口 滋 先生
演者: 京都大学大学院医学研究科 整形外科 助教 大槻 文悟 先生
- お問い合わせ先: 地域医療連携センター 担当: 浅田 TEL: 078-261-6739(直通)

Info 4 神鋼骨粗鬆症セミナー

- 日時: 2015年9月24日(木) 18時15分~19時30分
- 場所: 神鋼記念病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 特別講演1: 「骨粗鬆症診療に関する最新の話」
座長: 神鋼記念病院 整形外科 部長 武富 雅則
演者: 近畿大学医学部奈良病院 整形外科・リウマチ科 教授 宗圓 聡 先生
- その他: 日本医師会生涯教育単位認定、日本リウマチ学会認定、日本整形外科学会認定単位(4代謝性骨疾患、6リウマチ性疾患)
お弁当をご用意しております
- お問い合わせ先: 地域医療連携センター 担当: 浅田 TEL: 078-261-6739(直通)

Info 5 第6回 若手臨床研究発表会 (個の医療研究会共催)

- 日時: 2015年9月25日(金) 18時30分~19時30分
- 場所: 神鋼記念病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演: 「排便機能障害外来立ち上げに際して」
演者: 神鋼記念病院 大腸骨盤外科 医長 錦織 英知
- その他: 日本医師会生涯教育講座 1単位申請しております。
- お問い合わせ先: 総合医学研究センター 担当: 兒山 TEL: 078-261-6711(病院代表)

人工股関節置換術

以前は、臼蓋形成不全による変形が主でしたが、最近では高齢化により原発性や骨頭下骨折による変形や膠原病リウマチ科からの紹介による大腿骨頭壊死の症例が増加しています。最小侵襲外科Minimally invasive surgery(以下MIS)が流行となっていますが、当院では皮切の長さにこだわらず、早期機能改善の目的として筋肉をできるだけ損傷しない方針で行っています。

2010年よりDirect Anterior Approach(DAA)を導入することにより(図1.2)、外側アプローチと比較して術後疼痛も少なく、翌日より離床、3日目ぐらいより歩行が可能となります。出血量も少ないため自己血貯血や術中回収血、術後の輸血がほとんど無くなりました。また、仰臥位で手術を行なえるため両側に病変がある場合、積極的に同時に行っています(図3)。

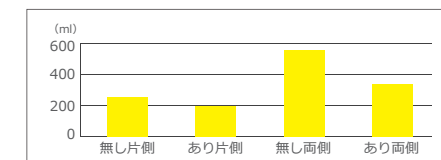
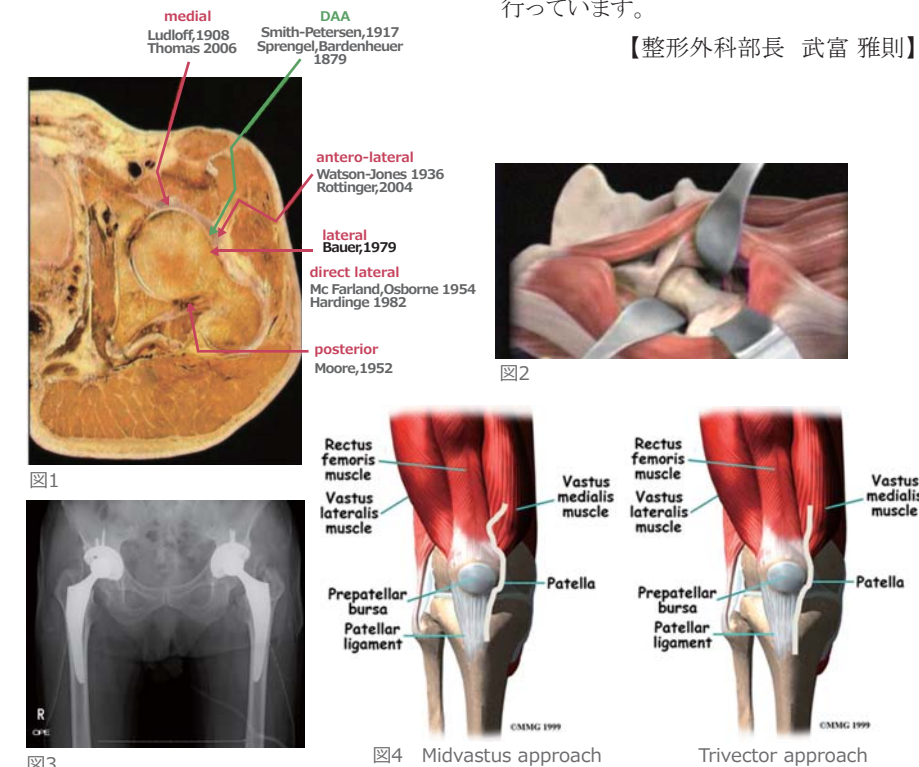


図5 術中出血量

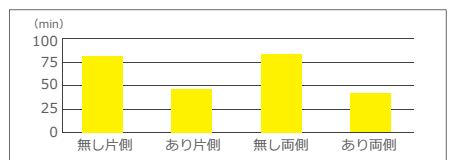


図6 駆血時間

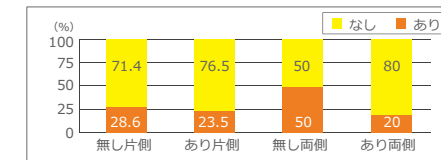


図7 術後48時間以内座薬か筋注を使用

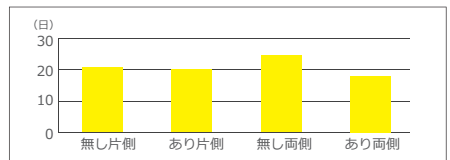


図8 術後在院日数

高齢化社会における脊椎疾患

現在、日本は世界一の高齢化社会(平成25年には65歳以上が25%)を迎えており、日常生活の質に影響を与える脊椎脊髄疾患は働き盛りの年代のみならず高齢者の生活にも大きな社会的問題を引き起こします。

私は脊椎外科の専門医・指導医として1,700例以上の手術を執刀してきました。その経験をもとに現在の脊椎脊髄疾患の動向、当院での治療方針などについてご紹介いたします。

前方手術

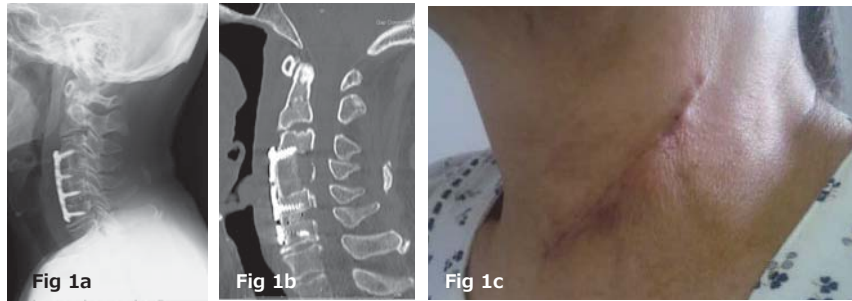
前方手術はアプローチが難しく手技が煩雑なことから、近年敬遠される傾向にありましたが、後方手術では成績が良くない症例が多々あることが分かってきました。

当院では基本的に脊髄神経を圧迫している原因が脊髄より前方にある場合には前方法を第一選択とします。頸椎/胸椎椎間板ヘルニアが代表的な疾患ですが、頸椎後縦靭帯骨化症(C-OPLL)、頸椎後弯変形、胸椎圧壊骨折などの疾患でも選択します。高齢者では合併症が危惧されますが、重篤な合併症の発生率はごくわずかです。高齢でありながら手術を決心された以上、より良好な結果を追求するべきであると考えています。

低侵襲手術

脊椎脊髄疾患にも他科同様に低侵襲手術が普及しています。日本では1999年に内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術(micro endoscopic discectomy: MED)が導入され、2009年には最小侵襲脊椎安定術(Minimally Invasive spine Stabilization: MIST)が提唱されました。MISTの中でも特に注目されているのが、2005年に導入された経皮的椎弓根スクリュー(percutaneous pedicle screw: PPS)を用いた各種手術手技です。PPSは腰椎変性疾患のみならず骨粗鬆症性椎体圧壊などの外傷、転移性脊椎腫瘍、感染性脊椎炎など様々な病態に応用されています。

2013年にはXLIF(extreme lateral interbody fusion)とOLIF(Oblique lateral interbody fusion)が日本に導入され、PPSによる後方固定と併用して普及しつつあります。低侵襲手術は遺残腰痛の軽減、術後感染率の低下、出血量の減少により全身状態の悪い患者さんや高齢者において特にメリットがある一方、手技の煩雑さ、放射線被曝、不十分な矯正力などの問題点が残っており、今後さらなる進化が期待されています。当院にはMEDシステムはありませんが、MISTは積極的に行っています。XLIF/OLIFについ



・ Fig 1a: 70歳女性。C-OPLLに対しC3-5,5/6前方除圧固定術施行。
 ・ Fig 1b: 術後CT。C4の骨化は浮上させている。
 ・ Fig 1c: 術後7日。抜糸はなく、入浴も可能。(カラーは4週間の予定)

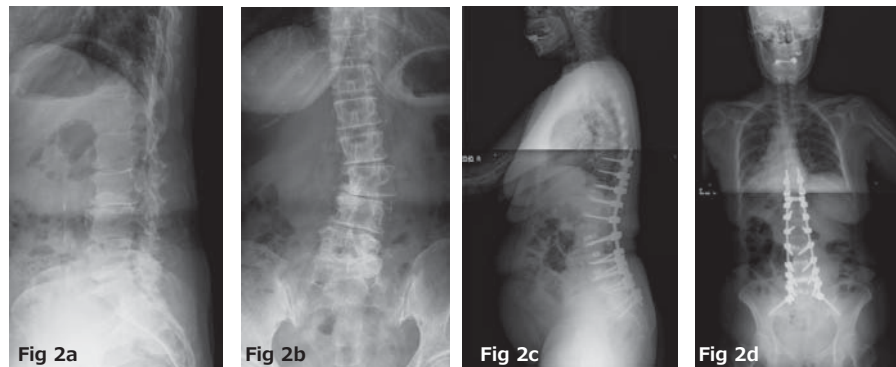


Fig 2a,b: 78歳女性。変性後側弯症による腰部痛のため歩行困難であった。
 Fig 2c,d: 術後、腰部の可動性は減じたものの、腰部痛は軽快した。

でも導入を検討中です。

矯正手術

高齢者脊椎において、より治療に難渋することが多いのは脊柱変形性疾患です。変性後側弯症に伴う腰部痛は頑固で、その対応にしばしば苦慮します。また、後弯変形に伴う(圧迫による)腹部症状は看過されていることがままあります。種々の保存療法が無効なことが多いものの、手術療法に

さいごに

当院でもリハビリ重視の観点より、2011年4月から土曜日、2015年4月より日曜日もリハビリを行っています(現在、理学療法士7名、作業療法士7名、言語聴覚士2名)。また、大腿骨頸部骨折に関しても麻酔科、手術室、病棟の協力により入院後48時間以内

踏み切るには往々にして躊躇します。近年、このような症例に対し矯正手術が積極的に行われるようになってきました。ただし、侵襲が大きいことに加え、骨質(骨粗鬆症)の問題、矯正固定範囲など悩ましい問題が多々存在します。中長期成績がまだ報告されていない現在、当院では慎重に適応を選択しています。

【整形外科医長 折井 久弥】

の手術を目指しています。

2015年3月より7月まで、スタッフの大幅な異動、電子カルテ導入により水曜日の外来を休止し近隣の先生方にご迷惑を掛け誠に申し訳ございませんでした。2015年8月より再開させていただきます。今後とも引き続きご指導ご鞭撻頂ければ幸いです。



左から 木村 豪太・折井 久弥・武富 雅則・小島 昭司

- 武富 雅則 [部長・平成3年卒]
 整形外科の運営に日々頭を悩ませています
 日本整形外科学会指導医など
- 折井 久弥 [医長・平成6年卒]
 脊椎外科医のエキスパート、
 日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄病指導医など
- 木村 豪太 [医長・平成12年卒]
 人工股関節置換術に情熱を燃やす男
- 小島 昭司 [専修医・平成22年卒]
 何があっても動じない、
 沈着冷静な外傷スペシャリスト

Infectious Disease Vol. 10 感染症科医のつづやき

Infectious Disease

神鋼記念病院 感染症科 科長
 香川 大樹

【抗菌薬を適正に使用するには②】

前回は、抗菌薬の適正使用のために注意すべき5つのポイントのうちの1つ目、「診断すること」についてお話ししました。今回は2つ目のポイント、「非感染症も常に鑑別に挙げること」についてお話しします。

発熱やCRP高値の原因は感染症ではありません。非感染症も原因になります。これは医師国家試験にも出てくる基本的な知識です。しかし、発熱やCRP高値があれば「感染症を見逃したら悪くなる」と不安に駆られ、**とりあえず**抗菌薬治療が始められているケースは珍しくありません。

ところが、非感染症が原因であれば、抗菌薬を使っても良くなるはずはありません。結局、「どうやら感染症ではなさそうだ」と主治医の不安がおさまるまで抗菌

薬治療が続けられることになるのです。これは適正使用とは言えません。感染症の治療薬である抗菌薬を抗不安薬として使うのですから。

こうならないためには「非感染症も常に鑑別に挙げる」ことが大切です。具体的に言えば、市中肺炎をみたらARDSや過敏性肺臓炎も、急性下痢症をみたら薬剤の副作用や甲状腺クリーゼも、蜂窩織炎をみたらうつ滞性皮膚炎や深部静脈血栓症も鑑別に挙げるのです。

「この発熱の原因は非感染症だ！」と一発診断することは簡単ではありません。しかし、非感染症を鑑別に挙げる癖がつけば、診断力は必ず上がります。非感染症に抗菌薬を使うようなことは少なくなるのです。

開業医探訪
 inquires into a doctor
 Vol.21

【内科・胃腸科・小児科】
 平川 医院

今回の開業医探訪は、当院の北側すぐにある温もりある落ち着いた待合室が特徴の平川医院进行訪問致しました。

【診療を開始されてどれくらいになりますか？】

父が昭和28年頃にこの地に開業致しました。そして、震災翌年の平成8年から私が引き継いでいますので、トータルで約60年になります。

【どのような患者さんが来院されますか？】

ご高齢の方が多く、約8割が高血圧や糖尿病、COPDなどの慢性疾患を抱えておられる方です。また、現代の平均寿命が反映されているのか、年を重ねるごとに女性患者さんの割合が高くなっています。70歳以上になると男性3に女性7の割合という印象を受けています。

【診療にあたり心掛けていることは何ですか？】

女性の患者さんが多いということもあり、女性特有の疾患について特に気をつけています。骨粗鬆症については当院で加療していますが、乳がん検診やエコー下で見つかった婦人科疾患など専門外の内容については、適切な医療機関に紹介・加療をお願いしています。その前提として、なんでも話してもらえるような姿勢で取り組んでいます。

【ひとこと】

最近、科学的根拠に基づいた医療というものがより重要視されるようになりました。日々研鑽に励み、新しい知識や治療法を理解するとともに、患者さんへ最新の医療を提供できるようにしていきたいです。

information

- 神戸市中央区大日通4丁目3-21
- TEL: 078-221-3883
- 診療科: 内科・胃腸科・小児科
- 休診日: 木・土曜午後、日曜、祝日
- 診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
17:00~19:00	○	○	○	×	○	×

